

園だより



ひなぎく

令和3年11月29日

師走を迎えて

園長 渡邊 博典

街にクリスマスの音楽が聞こえ始め、師走を迎える季節となりました。緊急事態宣言の解除後、新型コロナの感染者は激減し、日常の活動が戻りつつあります。しかし、今まで行ってきた三密の回避と感染症対策を施しながらの生活はまだまだ続く状況です。

11月5日は快晴の中、千葉市動物公園で親子遠足を実施しました。園児全員を引率して公共交通機関を利用する感染症対策には限界があり、今回は現地集合・解散とさせていただき、保護者の皆様のご協力に感謝申し上げます。子どもたちの動物を見る表情はとても豊かで、感じたことや疑問に思ったことを様々な言葉にしていました。そして、親子で食べたお弁当は格別の味がしたことでしょう。たくさんの笑顔が溢れた遠足となり、我々職員も大きな成果を実感することができました。

また、茹で芋大会では、朝から硬いサツマイモを子どもたちで切り、先生方が火を絶やさぬようにしながらサツマイモを茹で、子どもたちからは「がんばれ」の声援を受けました。茹であがったお芋は甘みがたっぷり、その後の給食があることも忘れ、3つ4つと食べる子どもの姿が印象的でした。このように秋の行事が無事終了できたこと、大変嬉しく思います。

さて、私は毎朝各クラスを回って「おはようございます」の挨拶を続け、子どもたちの元気な声にパワーをもらっています。挨拶は、その態度や表情、声のトーンなどからお互いの心の状態を感じ取れるものであり、多くの学校で教育目標の重点項目の一つになっています。私も毎朝夕に校門に立ち、生徒との挨拶を通して思春期を迎えた彼らの様子を観察し、生徒理解への一つの手立てとして努めてきました。それは幼稚園でも同じです。また、教室では学びの妨げにならないよう参観し、子どもたちが自分の作った作品を得意気に見せたり、できるようになったことを嬉しそうに話す様子を受け止め、必ず一人一人の目を見て次への励ましをするように心がけています。来園者からは「挨拶のできる子どもが多いですね」とお褒めの言葉をたくさんいただきます。明るく元気に挨拶する園児の姿は、皆様の家庭教育の賜物とも言えます。挨拶の基本は、①相手の目を見て、②元気よく、③笑顔で、です。子どもも大人も同じです。幼児期にこの3つの挨拶の基本ができる子どもは、児童期になっても自然と良い習慣を身に付け、やがて社会人になった時のコミュニケーション力の向上に繋がります。ご家庭でも、「おはよう」「ありがとう」「おやすみなさい」など、目を見て挨拶を交わす習慣を大切に、子どもの心の状態を見守ってほしいと思います。



【連絡①】

11月から給食が業務委託となりましたが、大きな混乱もなく、職員や調理員、業者と協議を重ねながら、安全で美味しい給食の実現を目指しているところです。1か月を経過したところで、保護者の方からご意見を頂戴したく、様式は問いませんので所定の場所に入れてください。(無記名可)

【連絡②】

前回の園だよりでも伝えましたが、令和4年1月1日より現在のひなぎく幼稚園の電話番号が使用できなくなります。しばらくは音声ガイダンスが流れますが、下記の電話番号の登録をお願いします。

新電話番号 047-420-3606 (現在も使用できます)